

日本グループ・ダイナミックス学会会報

ぐるだいのニュース

第15号 発行所：〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2-3-1

(1999年9月10日) 北星学園大学社会福祉学部（鹿内研究室）

日本グループ・ダイナミックス学会

電話：011-891-2731 Fax:011-894-3690

発行人：大坊郁夫 編集担当：堀毛一也

★★日本グループダイナミックス学会第47回大会へのご案内★★

大会委員長 石井滋

日本グループダイナミックス学会第47回大会が9月18日（土）・19日（日）に大阪国際女子大学人間科学部にて開催されます。

今回の大会では、65件の発表と5つのワークショップと大会企画シンポジウム1件が予定されています。ワークショップは「英文論文の書き方」（企画者：山口勸先生）、「対人関係・集団を理解するためのコミュニケーション・スキル研究」（企画者：大坊郁夫先生）、「感情の包括的理解に向けて」（企画者：北山忍先生）、「喪失、そして生」（企画者：藤田正先生）、「在宅介護支援のコミュニティー・ネットワークー個の介護から共に生きる介護へ」（企画者：吉野絹子先生）の5つが予定されています。各企画とも現在問題となっている課題をテーマに、これらに現在取り組んでおられる第一線の研究者や実務体験者から、様々な話題を提供いただけるものと期待しております。

また大会企画として「実践としてのグループ・ダイナミックス」をテーマに学校教育、企業組織、ボランティア活動の各分野から研究者と実践者にペアで登壇いただき、実践者からはこれまでの取り組みと現在直面している様々な問題点についてお話を伺いたいと思っています。また、研究者からはこれまでのそれぞれの実践研究のアプローチ方法を中心に話題提供をいただくとともに、これからの実践研究のあり方や研究者と実務者の両者の関係のあり方について議論の輪が広がることを期待しております。

また、第1日目の夕方からは学内ホールでの懇親会を予定しております。関西の味とお酒を楽しみながら参加者相互が歓談いただけるように準備を進めておりますので、多数ご参加ください。

すでに学会員の方々には大会プログラムや発表論文集（事前申込者）は送付済みですが、何らかの理由でまだ届いていない方や大会についての問い合わせがある方は以下にご連絡いただきますようお願いいたします。また、遠方から来られる方で宿泊等のご希望があれば以下の本学関係の旅行代理店へ直接ご依頼いたします。

大会当日はまだ暑い日が続いていると思いますが、多くの方々のご参加をお待ちしております。

◆大会に関する問い合わせ先

大阪府守口市藤田町6-21-57 大阪国際女子大学人間科学部内

TEL:06-6902-0791 FAX:06-6902-8894 E-Mail:ishii@oiuw.iou.ac.jp

宿泊等の問い合わせ先

(株) インターナショナルトラスト TEL:06-6241-5311 FAX:06-6241-8088

会期も近づいてまいりました。皆様お誘い合わせの上、是非ご参加くださいますようお願い申し上げます。

訃報：初代会長牛島義友先生ご逝去

さる8月20日、本学会の創設・運営に多大な貢献をいただいた名誉会員牛島義友先生が胸部大動脈りゅう破裂のため、御殿場市で逝去されました。享年93歳。元九州大学教授、元青山学院大学教授。1961年には、知的障害者入所施設「御殿場コロニー」を創設。九州大学時代に、本学会の創設、基盤作りにご尽力いただきました。学会として先生のご貢献に深く感謝し、謹んでご冥福をお祈りいたします。

★★ アジア社会心理学会開催：第1回三隅賞受賞者決まる ★★

アジア社会心理学会の第2回大会が、8月4日から7日まで台北で開催され、日本からも数多くの方々が出席されました。会場では日本語のサービスなどもあり、大変好評だったようです。準備にあたられた先生方、本当にお疲れさまでした。その席で第1回三隅賞の受賞者が発表され、東京大学の山口勸先生が受賞なさいました。選考の経緯などにつきまして大坊会長にご報告いただきます。また会長を通じ、3人の先生方に印象記をお願いしました。現地や会場の雰囲気を感じていただければ幸いです。

★☆☆ 第1回三隅賞受賞者決まる ★☆☆

会長 大坊 郁夫

8月4日から7日にかけてAASP第3回大会が中華民国台北市（南港区、中央研究院）にて開催されました。会場は、台北市の中心街からタクシーでおよそ40分ほどの距離にあり、いくつかの高等研究所が設置されているところです。

大会への最終的な参加者数はまだ分かりませんが、参加者数は300人を超え、日本人は約半数近くであったと思われます。

開会式の折りに、JGDA関係者としてopening addressを担当しました。なお、opening remarkでは台湾大学の莊仲仁教授（中国心理学会理事長）は英語の他に日本語でも挨拶

されていました。

歓迎パーティへの招待、毎日の昼食の提供、主なホテルとの連絡バスの運行、そして、日本語のできる受付等のスタッフの配置など、なかなか手厚いhospitalityであったと思います。

彼の地は高温多湿ですが、会場もホテルもクーラーがよく効いており、南国では贅沢な「寒い」という言葉も多々耳にいたしました。

さて、本題の三隅賞についてです。かねてその設定の仕方について常任理事会で検討されてきましたが、これまでの主旨を踏まえ、ぐるだいニュース14号に述べられているように、AJSPに掲載された論文の中から優秀な論文1編を選考することとし、本年度からスタートいたしました。選考手順としては、数回の投票で大会の前に最終候補論文数編を絞り込み、最終確認を台北でということでしたが、選考委員の回答をなかなか迅速には集約し難く、結局、第一次の候補者（候補者が分散せず、幸い下記の3論文でした）リストに基づいて台北の会場で順位づけ、最終確認を行いました。その際、選考基準をどうするかについての意見も改めて出されましたが、論文の質とともに、アジアにおける社会心理学の発展への貢献の大きさを第一に踏まえて選考するということで進めました。また、自身、あるいは指導関係にある者の論文については、その関係者は投票には加わらないことも申し合わせ事項としました。

この候補論文の中に選考委員でもある山口勸先生の論文が含まれていたのも、選考基準の確認をした後は、山口先生は議論に加わらないことを了承して選考を行いました。

各委員が独立に順位づけ評価を行った結果、山口勸論文に決定しました

これを受けて、8月6日のAASPのgeneral meetingの場にて、選考経過の説明を山岸委員が行い、同時に表彰式を行いました。なお、賞金1,000ドルについては、後日お送りすることにいたしました（三隅基金からの支出）。

受賞論文、最終候補論文は以下の通りです。

◆受賞論文

Susumu Yamaguchi 1998

Biased risk perceptions among Japanese: Illusion of interdependence among risk companions. AJSP, Volume 1, Number 2, 117-131

◆他の最終候補論文

David Matsumoto, Sachiko Takeuchi, Sari Andayani, Natalia Kouznetsova, & Deborah Krupp 1998

The contribution of individualism vs. collectivism to cross-national differences in display rules. AJSP, Volume 1, Number 2, 147- 165.

Toshihisa Kashima, Allison McKintyre, & Paul Clifford 1998

The category of the mind: Folk psychology of belief, desire, and intention.

AJSP, Volume , Number 3, 289-313.

◆選考委員会の構成

AASP

Ramadhar Singh National University of Singapore, Singapore

Sik Hung Ng Victoria University of Wellington, New Zealand

JGDA

Susumu Yamaguhi University of Tokyo, Japan

Toshio Yamagishi Hokkaido University, Japan

Ikuo Daibo Hokusei Gakuen University, Japan

なお、この大会日以後の新会長としては、台北での大会委員長である、Kuo-Shu Yang (楊國樞) 中央研究院副院長が就任することはかねて決まっていたましたが、その後 (2001年-2003年) の学会長として、山口勸先生が選出されました。また、第4回大会は、オーストラリア (メルボルン; 大会委員長 Prof.Yoshihisa Kashima) で2001年7月10日から開催されることになりました。また、Progress in Asian Social Psychology(Vol.2 Kyoyook-kwahak-sa Pub, Korea \$39)がこの期に発行され、JGDA会員の参加者には無償で

提供されました。なお、会費の改定、会員名簿の発行も決まりました。

また、この期間にJGDA、社心メンバーとAASP関係者との話し合いがもたれ、AJSPの引き受け数、AASPとの関係、AASP会員数の増大などについても話し合われました。

★★★ アジア社会心理学会印象記 ★★★

名古屋大学教育学部 吉田俊和

第3回アジア社会心理学会は、8月4日から8月7日までの4日間、台湾の台北市で開催された。会場の Academia Sinica（中央研究院）は、市街地の外れにあり、台湾の頭脳ともいべき研究所群であった。オープニング・セレモニーでは、本学会の大坊会長からも祝辞が述べられたが、続いて始まったウェルカム・パーティから、さすが食の国という感じで驚かされた。朝の9時台から飲茶風の食べ物やお菓子がずらりと並び、お菓子に限れば会期中途絶えることはなかった。ポスター・セッションなどは、お菓子のテーブルを取り囲む形で設置されていたりした。お弁当も毎日配られ、ベジタリアン用が準備されているのにも感心させられた。

何しに行ったんだと言われそうなので、アカデミックな話に移ろう。基本的には、講演、ポスター発表、シンポジウムで構成されており、ポスター発表の数は、日本人が断然トップで(146件中52件)、続いて地元の台湾、韓国の順であった。シンポジストの数も、日本人が3割近くに達していた。日本人の研究発表の内容は、バラエティーに富んでいたが、他の国の発表は、文化心理学的視点からの研究が多いと感じた。この傾向

は、講演やシンポジウムも同じであった。京都（第2回）での開催時と同様、参加者も発表者も若い人が多く、ポスター発表などでは、ノンバーバル・コミュニケーションも交えながら、懸命な議論が行われていた。運営面では、ポスター発表用のボードの配置が決めてなかったり、マイクの調子が悪かったり、講演時のフロアーからの質問が肉声でほとんど聞こえなかったりと、不慣れによる不手際はあったにしても、一生懸命さが伝わるものであった。

台北市の名物は、黄色いタクシーと125ccのバイクである。市内を走る車の三分の一ぐらいはタクシーで、安くて手軽な交通手段となっている。自転車はほとんど見かけないが、歩道上はバイクの駐輪で溢れている。タクシーとバイクの交通マナーは、大変悪い。うっかり青信号で歩きだしたら危険である。筆者は、社会的迷惑行為に関心を持っているので、非常に気になった。また、地下鉄のシルバーシート（博愛座）には、ちゃっかり若者が座っているし、普及率は低いですが、車内で携帯電話を使用している姿も目についた。ただ、喫煙に関しての社会規範は守られており、歩きながら吸う人やポイ捨て行動は見かけなかった。最後に一言、圧倒されたのは、夜市（屋台マーケット）における、台湾の人々のたくましさであった。

お茶の水女子大学大学院人間文化研究科 足立 にれか

8月4日から7日にかけて、台湾の台北で開催された第三回アジア社会心理学会に参加してきた。台風シーズン中の開催であったため天候を気にしての出発だったが、時折雨に降られたものの、ほぼ好天に恵まれた。中正国際空港に降り立ち空港内に足を踏み入れると、そこはもう漢文の世界。さて、まずホテルに無事に辿り着けるかが第一関門と入国し、誰かが間違えて持っていった自分の荷物を何とか取り戻してから、台北行きのバスに乗る。バスに揺られて街中を観察しながら約1時間ほどで、台北の駅らしき近くで降ろされる。その後は、「請問。請教一下。」（チョットオシエテクダサイ）を連

呼しながら、なんとかホテルに到着。それにしても、本当に中国語※しか通じない！

次の日は、台湾人である知人の案内で大会会場へ向かうこととなり、少し緊張感が緩む。台北駅近くのバス停で待っていると、バスが30mも離れた所に停車した。人が平然とそちらへ流れるので、慌てて皆で駆け寄って乗り込む。約50分も乗っただろうか、少しごちゃごちゃした街を抜けると、しばらくして研究所らしき建物群が見えてきた。街で見た貧弱なビル（失礼！）と違い、かなり近代的な建物である。バスを降り、会場の建物へと辿り着くと、大きな電光掲示板が出迎えてくれた。さて、大会は？

日本や台湾はもとより、香港、韓国、他、様々な国・地域で活躍されている諸先生方の顔も揃い、「アジア社会心理学」の存在意義・役割・思想から、翻って、社会心理学そのものの在り方までが、Special Speechやシンポジウムなどで、熱っぽく議論されていた。社会心理学は、今やかつてない程に内側から再検討を迫られている時期だと言えるようだ。それにしても、安定期より変動期の方がドラマチックでわくわくするものらしい。その想いが伝わってきて、こちらもドキドキした。また、誌上でしか知らなかった研究者を拝顔できる楽しい機会も得られた。

ポスター会場では、耳を傾けていると、英語は言うまでもなく、英語以外の言語での議論も活発に行われているようだった。さらに口頭発表でも、若手研究者たちの努力・奮闘を垣間見ることができ、少なからず刺激を受けた。ある先生が仰ったように、確かにここでは「英語が皆にとって母国語ではなく第二言語」であり、このような学会で、口頭発表やディスカッションを体験する機会を提供して頂いていることは、私たち学生にとって非常に有り難いことである。今後とも、この貴重な機会をうまく活用していきたいと思うに至った次第である。

海峡を挟んで中国との緊張が高まる中、会場内では出身地を問わず皆が随所で歓談し、和やかなうちに国際交流が行なわれていた。また、お茶とともに、台湾の珍しい果物や見慣れないお菓子などが何度か振る舞われ、参加者の喉を潤し、胃を満たしていた。残念ながら、今回学会側が用意してくれたツアーに参加することは出来なかったが、大会参加者のための様々な企画や細かい心配りのお陰で、大会を十二分に満喫することができた。今大会のホストであった、台湾大学、中央研究院民族学研究所の先生方、スタッフの皆さんに心からお礼を申し上げると共に、台北のあちこちでお世話になった台湾の人たちに感謝しつつ筆を置きたい。

※注）台湾では、通常学校で北京語（日本で言う中国語）を習い、日常会話では、客家語・台湾語（福建語の一種）を用いている。街の店員・タクシーの運転手・駅員などは、英語が通じないと思っていて正解。途方に暮れていると、日本語の堪能な人が登場することもあるが・・・。

広島大学大学院生物圏科学研究科 西村太志

去る8月4日から7日にかけて、台湾中央研究院(Academia Sinica)で開催された第3回アジア社会心理学会に参加してきました。海外旅行も国際学会は初めての体験だったので、感心することや困惑することなど多々ありましたが、とても有益な時を過ごすことができました。そのときの印象を僭越ながら少し記したいと思います。

まず、国内の学会でも経験することなのですが、自分が行っている研究に対して興味を持って下さる方が、海外にもいることを実感できたことが最大の収穫です。特に大学院生ですとまだまだ研究者間のネットワークの中では新参加者ですので、国内外の研究者ネットワークを構築するよい機会となりました。また、先行研究の検索の際には普段は欧米の研究にどうしても目が向きやすいのですが、アジア各国の研究者が自分の研究に対して多少なりとも興味を抱いて下さったことで、アジア各国での研究にも目を向けなければならないと感じました。

また、今回の学会の発表で感じたことは、文化的視点をふまえた研究が多かったことです。この点はアジア発の社会心理学の特徴を反映する部分かもしれないと思います。しかし、文化の視点のみに偏ることなく、様々な視点からの研究が活発になれば、欧米の社会心理学とは異なるアジアの社会心理学をアピールすることが、今まで以上に可能になると思います。文化的差異を考慮した上で、土着ではなく普遍的な社会心理学を世界に向かって発信する可能性を、この学会は秘めていると思いました。

次に学会の会場の印象についてふれたいと思います。スタッフの方々は親切で、また家庭的な雰囲気です。接していただいて、快適に過ごすことができました。日本語にも完全対応でとても助かりました。懇親会も、非常においしい料理がたくさん出て、楽しいひとときを過ごすことができました。ただ、円卓での着席スタイルだったので、多くの方と交流することが難しかったことが、少しだけ残念に感じました。

台北の街についても少しふれたいと思います。市内での移動はタクシーが主でしたが、料金も日本と比べたら安く、また市街地の屋台や夜市は活気にあふれていました。日本人の海外旅行先としては手頃で、過ごしやすい所だと感じました。町並みは日本と

あまり変わらず、日本で有名なファーストフード店や携帯電話の看板、アニメのキャラクターが町中に溢れていました。

2年後のアジア社会心理学会はオーストラリアで開催されると聞きました。次回は今回以上に研究内容も幅広く盛大に、またこれまでに築かれてきたアジア諸国の社会心理学研究者との交流がより一層深まればいいと思います。そのときには日本からも今回以上に多くの方が参加されることを期待しています。特に大学院生の方にとっては、国際学会デビューのいい機会になると思いますので、多くの方が参加されればと思います。

最後になりましたが、今回の学会の運営に携われたすべての方々に感謝申し上げます。

★★ 資格制度導入について：ホームページ掲示板にご意見を ★★

グルダイ学会のホームページでは、山岸常任理事のご提案にもとづき、会の運営に関する皆様のご意見を伺うべき掲示板を開設いたしました。現在資格制度の導入を中心に意見交換がなされております。アドレスは、<http://www.nacos.com/JGDA/>です。ぜひご覧いただきますとともに、ご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。実験社会心理学研究掲載論文の要約や年次大会のご案内、ニュースレターなども掲載されております。

資格制度導入に関する会員の皆様のご意見をお寄せください。

◆投稿論文の送付、機関誌編集に関する問い合わせ、その他学会運営に関するご意見◆

北星学園大学社会福祉学部（鹿内研究室）

〒004-8631 札幌市厚別区大谷地西2-3-1 北星学園大学社会福祉学部

電話：011-891-2731 Fax：011-894-3690 E-mail：z00119@hokusei.ac.jp

◆ニュースレターの編集・記事の投稿◆

岩手大学人文社会科学部堀毛研究室

〒020-8550 岩手県盛岡市上田3-18-34 岩手大学人文社会科学部

電話・Fax：019-621-6842 E-mail：kekehorii@iwate-u.ac.jp

QGB03376@niftyserve.or.jp

★★ 常任理事会報告 ★★

第4回日本グループ・ダイナミックス学会常任理事会

日時：1999年7月4日（日）9：30～14：00

場所：北星学園大学研究棟4階共同研究室

報告事項

1. 「実験社会心理学研究」審査・編集状況について

39巻1号は7月始めに会員に送付される。今年度始めから現在までの状況は、受理2、審査中30、reject 0、取り下げ3。審査が遅れ、投稿者が不利益を被っているケースがあるが、今後主査に依頼してから6ヶ月経過しても審査結果が報告されない場合には、主査を変更することもあるとのこと で合意した。

39巻2号の特集について、「ぐるだいニュース14号」で、投稿希望を募ったところ、ハッ塚一郎氏企画の「阪神大震災後のグループ・ダイナミックスー5年目の実践・反省・収穫」に対して、4件の申し込みがあった。原稿締め切りを8月末日とし、主査（編集委員長）と副査2名で審査をすることとした。

2. ニュースレターの発行について

次号は9月始めに発行する。

3. 優秀論文賞の選考状況について

編集委員（理事）による互選の結果、古畑和孝理事が選考委員長に選出された。

古畑和孝 7票、 次点 橋口捷久 3票、山岸俊男 3票

対象論文は「実験社会心理学研究」38巻1号および2号に掲載されたすべての論文である。一般部門と若手部門（第一著者が31歳未満）のそれぞれから選考する。

4. 三隅賞の選考状況について

日本グループ・ダイナミックス学会から3名（会長、山岸俊男常任理事、山口勸編集委員）、AASPから2名（Sik-hung Ng氏、Ramadhar Singh氏）を選考委員とした。各委員は7月10日までに2論文を推薦し、その後、推薦論文について各委員が 評価し、評価結果に基づいて、協議して決定する。AASP大会時に表彰する。

5. AASP大会の状況について

関連情報は、日本グループ・ダイナミックス学会のホームページに掲載されている。また、ここからAASP大会のホームページへのリンクもなされている。

6. 日本心理学諸学会連合について

同連合の1999年度第1回理事会が、5月15日（土）東京で開催され、本学会からは大坊会長が出席した。

様々な議論がなされたが、東洋氏が同連合理事長に選出され、会則および細則が承認された。

7. その他

- ・「実験社会心理学研究」39巻2号掲載予定の書評対象として、3、4冊が候補として挙げられ、適当な会員に書評をお願いすることとなった。
- ・当学会のホームページに掲示板を開設し、会員が自由な意見を述べる場を設けることとした。
- ・事務局に学会専用の直通電話／Faxが置かれた。番号は、001-896-7560。

審議事項

1. 会員異動について

1999年4月以降の新入会員は、15名。退会者は、15名。

2. 1998年度決算報告（案）について

決算報告案は別紙（総会にて配布予定）。

予算と決算との差額が大きい事項を中心に以下の点が話し合われた。

3. 日本グループ・ダイナミックス学会集団指導士資格認定規則（案）について

「ぐるだいニュース14号」に、資格認定を希望する現場の方々の意見を掲載したが、広く会員の意見を求める必要があると考え、学会のホームページに掲示板を開

き、会 員が自由に意見を述べられるようにした。この旨の文書が会員に送られた。

掲示板に載せられた会員の意見を踏まえ、改めて検討することにした。

4. 特集論文の組み方について

以下のことが合意された。

- ・広く会員に対して、特集のテーマを募集する。この時、企画（執筆者など）を伴った 提案だけでなく、テーマだけの提案でもよい。広募のあったテーマについて、常任編 集委員会で決定する。

- ・現在は各巻の2号に特集が組まれているが、今後は、2号に限らず、よいテーマが提案された時に、特集を組む。ただし、一般論文の掲載を妨げることはない。

- ・企画者が審査するかどうかなど、審査者の構成はその都度、決定するが、原則として、 一般論文と同様の審査体制をとる。

5. 地区活動の活性化について

地区の研究会などの事情によっては難しい点もあるが、地区活動担当の村田・堀毛両 常任理事から、地区別理事に連絡し、共催などの連携が可能ならば、積極的に行うこ とになった。

6. ホームページ運営のあり方について

学会のホームページの管理を、現在は中西印刷（株）に委託しているが、機動力をもたせるために、学会で直接運営していく必要があり、今後、管理を依頼できる人材を選定していくこととなった。

7. 他学会との連携について

さらに継続して検討することとした。

8. 大学院生の会費の扱いについて

1998年度の総会において、大学院生の会費の減額の可能性を検討することを条件に会費の値上げが承認された。これを受けて、現行では「大学学部卒業後2年以内の大学院生」に限り、会費が8,000円となっているが、これを仮に「大学学部卒業後5年以内の大学院生」の会費を8,000円として、学会会計の試算をしてみるようになった。

9. その他

- ・第48回大会（2000年度）の開催校の候補を、提案してもらうように、理事に連絡することにした。

- ・「実験社会心理学研究」を、会員所属機関の図書館でまだ購入していない場合には、購入してもらうように呼びかけることにした。

10. 次回の常任理事会は9月17日（金）の予定

★★ 公募情報 ★★

※募集先： 中京大学社会学部

専門分野：社会心理学または臨床心理学（コミュニティ心理学の視点に基づく研究業績を有する者） 教授、助教授または講師

締切日： 1999年9月20日

連絡先： 中京大学社会学部センター 0565-45-0971(ex.430]

※募集先： 大阪市立大学看護短期大学部看護学科

専門分野：心理学、臨床心理学、カウンセリング論、コミュニケーション論 教授

締切日： 1999年9月24日

連絡先： 大阪市立大学看護短期大学部 06-6645-2721

※募集先： 名古屋大学情報文化学部社会システム情報学科情報行動論講座

専門分野： 認知心理学とその関連領域 助教授または講師

締切日： 1999年9月24日

連絡先： 名古屋大学情報文化学部情報行動論講座 川口潤教授 052-789-3505

※募集先： 札幌学院大学人文学部

専門分野： 臨床心理学 教授、助教授または講師

締切日： 1999年9月30日

連絡先： 札幌学院大学学務課 011-386-8111

※募集先： 静岡大学人文学部社会学科

専門分野： 臨床心理学 助教授または講師

締切日： 1999年9月30日

連絡先： 静岡大学人文学部社会・言語文化学科事務室 054-238-4524

※募集先： 信州大学教育学部

専門分野： 教育科学講座・教育科学分野（臨床心理学、カウンセリング、生徒指導、
教 育相談）助教授

締切日： 1999年9月30日

連絡先： 信州大学教育学部 守一雄教授 026-238-4214

※募集先： 和光大学人間関係学部人間発達学科

専門分野：心理学ないしその近接分野（働くことや職業生活に伴う心理学的諸問題に
精 通し、メンタルヘルスや相談活動など生涯発達を視野に入れたフィール
ド体 験にも明るい心理学者） 講師、助教授または教授

締切日： 1999年9月30日

連絡先： 和光大学学部事務室 044-989-7497

※募集先： 名古屋大学文学部

専門分野：広義の基礎心理学を研究分野としており、本学部の心理学スタッフの専門
領 域（動物心理学、知覚心理学、社会心理学）と重ならない者
教授または助教授

締切日： 1999年10月1日

連絡先： 和光大学学部事務室 044-989-7497

※募集先： 文教大学情報学部広報学科

専門分野：社会心理学 助教授または講師

締切日： 1999年10月22日

連絡先： 文教大学湘南校舎 総務課 0467-54-3703

※募集先： 文教大学情報学部情報システム学科

専門分野：認知心理学・教育心理学 教授または助教授

締切日： 1999年10月22日

連絡先： 文教大学湘南校舎 総務課 0467-54-3703

（編集後記）東北は異様に暑い夏でした。普段はお盆を過ぎると日中はともかく夜は涼風が立つのです

が、今年は熱風で寝苦しい日が続きました。8月半ばまで約1月、さわやかなバンクーバーで過ごしていたため、よけい暑さがこたえた気がします。じめじめ・むしむしで日本は熱帯なんだなという感じを強くもちました。

アジア社会心理学会、好評だったようですね。ご出席の皆様、関係者の皆様、お疲れさまでした。今号では3人の先生方から印象記をお寄せいただきました。ご協力ありがとうございました。この週末にはグルダイ学会の開催が予定されております。こちらも盛り上がりを期待いたしております。皆様ふるってご参加ください。（堀）